

研究タイトル： 女性が沖縄で文学を書くということ ～＜歴史＞と＜記憶＞の位相～



氏名： 翁長 志保子 / ONAGA Shihoko E-mail: onaga@kochi-ct.ac.jp

職名： 講師 学位： 修士(文学)

所属学会・協会： 日本近代文学会、琉球アジア社会文化研究会

キーワード： 沖縄近現代文学、日本近現代文学、地域連携、反転授業・アクティブラーニング

技術相談
提供可能技術：
 ・沖縄近現代文学／文学、倉橋由美子などに関する研究
 ・反転授業・アクティブラーニングを用いた国語授業
 ・文学や国語、BL・少女漫画を中心としたサブカルチャーに関わる講座などの地域連携教育

研究内容：

◆研究概要

沖縄近現代文学の中でも「崎山多美」という作家に着目し、作品分析を行っています。日本は 1945 年に敗戦を迎え、1952 年のサンフランシスコ平和条約発効後主権を取り戻しますが、沖縄は 1972 年の日本＜復帰＞までアメリカの統治下にありました。＜復帰＞以降も広大な米軍基地が残され、沖縄の住民たちは今も基地と生活を共にしています。＜復帰＞に関わる政治的な動きは否応なく＜歴史＞に刻まれています。当時沖縄でミクロな生をいきた人々の個別の＜記憶＞は忘却されつつあります。個別に保有され、その個人の死とともに棄却されていく＜記憶＞に文学はどのように応答するのか、ということに関心を寄せ分析を行っています。

また、今年度からは 1980 年代沖縄における女性作家の躍進についての研究にも取り組んでいます。この研究を通して、現在の沖縄文学の文壇にどのような陥穽がありうるのかを明らかにする予定です。

こうした文学研究とは別に、国語の教科的な指導で、学生たちの主体性を重んじる反転授業やアクティブラーニングを用いた教授法に関する研究、教材の開発にも関心を寄せています。

◆研究テーマと成果の例

(1) 崎山多美に関する研究

沖縄出身の作家である崎山多美は、「言葉」にこだわって作品を書き続けています。アイデンティティの不条理を「言葉」の被傷性を通じてえがき、生の個別性を「言葉」で表現することに挑戦しています。

同時に＜歴史＞のなかで棄却される個別の＜記憶＞について、文学を通して応答し、棄却された＜歴史＞をどう呼び戻していくのか、ということについて分析を行っています。

(2) 1980年代沖縄における女性作家の躍進

1980年代以前、沖縄における文壇は大城立裕を中心とした男性たちによって締められていました。しかし1980年代になると、雑誌『新沖縄文学』を中心に、女性作家の作品が相次ぎます。「妊娠」「墮胎」など、女性の生を性に象徴させる作品の受賞が相次ぎました。本研究では、その背景について明らかにするとともに、作品の再評価を行います。

(3) 高専国語教育における反転授業ならびにアクティブラーニングの実践と効果検証

5年間の一貫教育を受け、技術者として社会に出ていく学生たちは社会において即戦力としての力を望まれます。その学生たちが自らの問題を発見・考察・解明する能力を養うために、アクティブラーニングを導入した授業を行い、主体的な学び・協同性を習得させることを目的とした授業展開を開発します。また、その実践と効果の検証も行うことで、より効果的な教材の作成も行う予定です。

